

# 韓国の大学入試への日本語科目の導入とその影響

森 山 新

## 要 旨

韓国では2001年度大学入学試験において、新たに第2外国語領域が選択科目として加わった。その特徴としては、何よりも言語知識より言語使用能力に対する評価が重視され、意思疎通能力を評価する問題が60%を占めたことである。また文化理解能力を評価する問題も3題出題され、全体の10%を占めた。

韓国の大学入試で日本語などの第2外国語科目が導入されたことにより、中等教育での第2外国語の重要度が増すことは言うまでもない。また教育内容においても、今後、意思疎通能力や文化理解能力養成に力点が置かれることになるであろう。

【キーワード】韓国、大学入試、第2外国語、日本語科目、修学能力試験

### 1. はじめに：韓国の修学能力試験と第2外国語領域の新設

2000年11月15日、韓国において全国一斉に実施された2001年度大学修学能力試験（以下「修能試験」）で、今回初めて、第2外国語領域が選択科目として加わった。

修能試験における第2外国語領域実施は、公式的には1999年に大学修学能力試験改善方案研究委員会（1997年4月発足）が「1999学年度大学修学能力試験改善方案」研究において、世界化の一環として、必要な学生たちに選択的に第2外国語試験を受けるのが望ましいという提案に端を発している。

この提案を受けた教育部は、2001年度から修能試験において第2外国語領域の評価を加えることを決定した。この決定は韓国が真の国際化・情報化社会を旨ざしての第一歩が踏み出されたということを意味し、同時にこれにより、学校現場にてこれまで跛行的に行われてきた第2外国語教育の正常化を期すことができるようになった<sup>1</sup>。

修能試験は、日本でいえば共通一次センター試験に該当する全国一斉の大学入学試験で、1994年から導入された。大学に進学しようとする全ての受験生が必ず受けなければならない、高等学校課程履修確認試験であると同時に、大学に入学し修学が可能な能力を持つことを認定する試験であるという、二重の機能を遂行している。また高等学校教育課程の内容と水準に従い、国語、数学などといった教科別に実施される試験ではなく、言語、推理・探求、外国語（英語）といった領域別に実施され、可能な限り統合教科的素材をもとに思考

力が測定される学力考査である。

2001 学年度修能試験において第2外国語領域の結果を選考資料とした大学は、全国 186 大学中 34 大学にとどまった。これらの該当大学を志望する受験生は、6つの第2外国語(独語、仏語、西語、中語、日語、露語)の中から一つを選択し受験することになる。

修能試験に第2外国語領域が加わったことが韓国の日本語教育に及ぼす影響は非常に大きなものがある。とりわけ試験での評価内容は、高校などの中等教育や、2002 年から使用される第7次教育課程の高校教科書作成などに直接的な影響を及ぼす。従って本稿では、2001 年度の修能試験の内容と、その及ぼす影響などについて明らかにしてみたい。

## 2. 第2外国語科目

第2外国語の試験は選択科目として導入され、筆記型選択試験の形態で、40 分で 30 題の問題を解く。第2外国語6科目の中では、日本語の受験者が最も多かった。

韓国教育課程評価院の統計によれば、第2外国語全体の志願者数は 268,355 名(受験者数は 262,711 名)で、これは修能試験志願者数全体(872,297 名)の約3割に相当している。このうち日本語受験者は 93,183 名で、第2外国語全体の 35%を占めている(李:2001)。

表1 第2外国語領域の受験者の系列別平均点

	全体	独語	仏語	西語	中語	日語	露語
平均点 (40 点満点)	32.7	35.5	34.7	31.7	35.7	28.1	28.3
換算点 (100 点満点)	81.7	88.7	86.7	79.2	89.2	70.2	70.6

一方試験の結果は表1に示されている。これを見ると、日本語の平均点は 70.2 点(40 点満点中 28.1 点)で6つの第2外国語科目の中で最も低くなっている。しかしこれはむしろ日本語以外の外国語科目の出題が容易過ぎたことによるものであり、日本語の平均点は教育評価院の当初の目標に唯一合致したものであった<sup>2</sup>。

第2外国語領域の高等学校教科書はⅠ・Ⅱから構成され、各6単位となっている。第6次教育課程(1996-2001年)では第2外国語は、英語教科5科目(英語Ⅰ・Ⅱ、英語読解、英語会話、実務英語)と共に外国語教科群に編成されている(課程別必須教科)。第5次教育課程適用時(1988-1995年)には、第2外国語Ⅰ・Ⅱが必修教科であったことを考えると、実質的には授業時間数が減少していると見ることができる。すなわち第5次では12単位の授業を行っていたものが、第6次では外国語群に属している教科の中からの選択となるた

め、実際には大部分の学校で第2外国語 I だけが必修となっている場合が多い。従って平均6～8単位程度の第2外国語授業が行われているものと予測される。その結果修能試験第2外国語領域では第2外国語 I のみが評価の対象となった。

高校での「第2外国語 I」科目は言語の理解技能と表現技能を共に要請しつつも、聞く・話すことに重点が置かれ、意思疎通能力を伸張することに着眼が置かれる基礎課程である。読む・書く能力は「第2外国語 II」にて重点的に教えられるようになっている。従って第2外国語 I のみを評価の対象とした修能試験では口頭の意味疎通能力の評価に重点が置かれることになる。しかし上で言及したように、修能試験は高等学校課程履修確認試験であると同時に大学修学能力の認定試験でもあるため、大学修学に必要な読む・書くなどの文字を通じた意志疎通能力も測定される必要がある。

4技能の出題比率が表2に示されている<sup>3</sup>。今回の試験では視聴覚器材を用いた聞き取りの試験は実施されず、すべてが筆記試験による試験となった。これは第2外国語領域の受験が志願大学の要求に応じて選択的に受験されるものであることに加え、班分けの問題や聞き取り試験施行上の問題（6つの外国語科目試験を同時に実施するため放送利用ができないこと、騒音など）によるものであった。そのかわり間接的に聞く能力を評価する問題が3題出題されている。具体的には発音を識別する能力を問う問題や、電話番号の発音を読んでそれを数字で正しく表記した答えを選ぶ問題などが出題の対象となった。

また話す・書く能力も記述式問題ではなく、選択式問題を通して間接的に評価された。これは全国規模の試験であるといった現実的制約から、実際に話させたり書かせたりする遂行評価が困難なためである。これらについては文字を通して意思疎通場面を仮想的に設定し、遂行評価時に得られる結果と類似した結果が得られるようにして評価された。具体的には、話す評価では、主として対話文において、相手のことばを読んで答える類型の問題などが出題された。書く評価は主に手紙やお知らせなど、実用文を補充する問題、叙述体の文を補充する問題などが出題の対象となった。

表2 言語4技能の出題比率

評価要素	聞く・話す	読む	書く
出題比率 (%)	40	50	10

読みの能力は直接評価された。しかしこれまでの読みの評価は断片的な文法知識が評価

されることが多かったが、今回の試験ではこうした文法知識が評価される読解問題は見られなかった。読解力を事理解解力（伝達される情報の理解）、推論的理解力（大学修学上必要な論理的推論を行うことができる読解力）とに分けるなら、第2外国語領域では後者を測定するには無理があるため、やさしい読解資料を用いた事理解解力の測定に主眼が置かれた。具体的には、全体的内容、要点、主題などを把握するような読解問題、道路表示板、地図、列車・飛行機の時刻表など、実際の資料の内容を理解し活用することができる能力などが評価対象となった。

一方、試験問題の内容とその割合が表3に示されている。これを見ると意思疎通機能の理解・活用に対する能力評価の比率が非常に多くなっている。意思疎通能力とは話者の言語能力のみならず、社会・文化的背景知識、論理的一貫性を持って談話を展開する能力、及びさまざまな談話を区別し、これに適切に対処する能力を意味する。韓国の外国語教育では第6次教育課程以降、構造シラバスから機能シラバスへの転換が図られ、従来の言語用法中心の教育から言語使用中心の教育へと転換しつつある。また言語使用においては、正確さより流暢さや文脈的妥当性が強調されるようになった。今回の第2外国語領域の試験において、意思疎通機能の理解と活用に対する能力評価の割合が多いのは、このような変化が反映したものと見ることができる。

教育課程には、予め意思疎通機能例示文が提示されている。これに基づいて意思疎通機能を理解し、適切な状況で活用する能力を養成することは、第2外国語教育の核心的な学習内容となっている。従って試験では意思疎通機能例示文を参照しつつ、その中から第2外国語Iのレベルに合った意思疎通の場面が選択され、出題されている。

もう一つ注目すべきことは、文化理解能力が評価されていることである。言語と文化は不可分の関係にあり、意思疎通能力は言語的知識のみならず、社会的、文化的知識を習得することが求められる。意思疎通能力の習得を教育目標とする外国語教育において、バランスのとれた意思疎通能力のためには、文化理解教育が重要であるといった観点から、評価の対象とされたのである。

評価対象となった文化理解の内容としては、その国の日常生活文化や、韓国の文化との共通点や相違点の理解することが主な範囲とされ、幅広い意味での文化理解は初期学習レベルでは不可能であることから除外されている。

表3 修能試験第2 外国語領域の評価要素と出題数との関係

評価要素	下位評価要素	出題数 (比率)
発音及び表記の識別力評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の子母音の発音理解</li> <li>・子母音結合関係の理解</li> <li>・単語と単語の結合時の発音変化に対する理解</li> <li>・外国語表記の理解</li> <li>・発音と表記との関係の理解</li> </ul>	3(10%)
語彙力評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語の一次的意味及び脈絡的意味の理解</li> <li>・単語間の連関性理解</li> <li>・慣用表現に対する理解</li> </ul>	3(10%)
文法理解力評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語法に合った表現、誤った表現識別</li> <li>・非文法的な文の修正</li> <li>・時制の把握</li> </ul>	3(10%)
意思疎通機能の理解及び活用能力の評価	<p>*以下の意志疎通機能を理解し活用する能力を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の考え</li> <li>・個人の知覚</li> <li>・親交活動</li> <li>・日常的な対人関係</li> <li>・誘い・依頼</li> <li>・指示・命令</li> <li>・情報交換</li> <li>・意見交換</li> <li>・問題解決</li> <li>・創造的活動</li> </ul>	18(60%)
文化理解能力評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活、学校生活、社会生活と関連のある事項</li> <li>・趣味、娯楽、スポーツ、旅行など、余暇に関する事項</li> <li>・各国の独特な文化(料理、音楽、舞踊、文化財など)に関する事柄</li> </ul>	3(10%)

### 3. 日本語科目の出題範囲

まずは日本語科目の出題範囲とその実際を、語数、文法事項、意思疎通機能及び例示文、文字(漢字)に分けて示すことにする。

#### 3.1. 語数

韓国教育課程では高等学校「日本語Ⅰ」での使用語彙を500字程度に設定する一方で、日本語の基本語彙表に掲載された語数は771字である<sup>4</sup>。また12種の日本語教科書で使用されている語彙は平均722(語彙総数は2102)である。従って試験に用いられる語彙の基準は基本語彙表に提示された語のうち、多くの教科書で使用されているものが対象となる。

実際の試験では210の語が出題された。このうち55%は12種の教科書すべてに使用された語で、80%が9種以上の教科書で使用されている(表4参照)。

表4 修能試験使用単語の使用教科書数分布

使用教科書数	12冊	11冊	10冊	9冊	8冊	7冊	6冊	5冊	4冊～
単語数	94	24	11	9	5	8	6	5	10
比率(%)	54.7	14.0	6.4	5.2	2.9	4.7	3.5	2.9	5.8

注) 固有名詞、助数詞、及び注釈のついた単語は除外した。

### 3.2. 文法事項

文法事項数は12種の教科書で計169、そのうち6種以上の教科書で扱われているのは62に過ぎない。試験で文法理解力を直接評価する問題は3題に限られており、全体的に意思疎通能力が重視されていることから、取り扱う教科書の多い文法項目が出題対象となる。

### 3.3. 意思疎通機能及び例示文

意思疎通機能例示文には、表5に示されたように、10の大項目と36の小項目に、73の機能例示文が提示されている。意思疎通能力を問う問題は18題であることから、機能例示文の中で多くの教科書で扱われている主要な例示文から出題されることになった。

表5 意思疎通機能例示文と教科書別使用頻度 (韓国教育評価院(1999:82-83)から引用)

例示文文型	機能	表現	反映教材	用例頻度
あなたは運動ができますか。	可能性	個人の考え	6	15
雨が降りそうです。	可能性	個人の考え	5	8
カメラがほしいです。	願望・意思	個人の考え	7	14
私もぜひ行きたいです。	願望・意思	個人の考え	12	47
もっとがんばります。	願望・意思	個人の考え	3	3
あしたはきっと会えるでしょう。	確信	個人の考え	3	5
急げば間に合うと思います。	確信	個人の考え	10	14
吉田さんは来ないかもしれません。	推測	個人の考え	4	4

彼も行くだろうと思います。	推測	個人の考え	3	5
つかれているようですね。	推測	個人の考え	5	7
お会いできてうれしいです。	喜怒哀楽	個人の感じ	5	5
きのうの映画はとてもおもしろかったです。	喜怒哀楽	個人の感じ	5	9
これはおいしいですね。	感覚的知覚	個人の感じ	7	21
とてもいいにおいです。	感覚的知覚	個人の感じ	2	4
夏は暑くてきらいです。	好き・嫌い	個人の感じ	4	5
私は山に登るのが好きです。	好き・嫌い	個人の感じ	9	32
ひとりでさびしかったです。	情緒的感覚	個人の感じ	2	2
道が暗くてこわかったです。	情緒的感覚	個人の感じ	3	3
お元気ですか。では、失礼します。	挨拶	親交活動	7	12
あしたあそびにいらっしゃいませんか。	招待	親交活動	2	2
あなたもぜひ来て下さい。	招待	親交活動	9	11
今度の日曜日はどうですか。	約束	親交活動	3	3
あしたの午後三時に郵便局の前で会いましょう。	約束	親交活動	4	4
金さんはほんとうに歌が上手ですね。	賞賛・激励	親交活動	5	8
がんばって下さい。	賞賛・激励	親交活動	3	4
すみません、ちょっと待って下さい。	中断・終止	親交活動	5	9
では、これで失礼します。	中断・終止	親交活動	4	4
はじめまして、ユンヒです。	紹介	対人関係	10	28
どうぞよろしく。	紹介	対人関係	10	46
もしもし、山田先生いらっしゃいますか。	電話	対人関係	4	6
もしもし、山本ですが李さんお願いします。	電話	対人関係	1	1
ありがとうございます。	感謝	対人関係	11	48

いろいろとお世話になりました。	感謝	対人関係	3	3
遅くなってすみません。	謝罪・弁明	対人関係	7	8
試験があったので行けませんでした。	謝罪・弁明	対人関係	3	4
金さんの住所を教えてくださいませんか。	依頼・要請	誘い・依頼	1	1
私に行かせてください。	依頼・要請	誘い・依頼	11	69
はい、いいですよ。	依頼・要請	誘い・依頼	5	10
けっこうです。	依頼・要請	誘い・依頼	2	2
それはちょっと困ります。	依頼・要請	誘い・依頼	1	1
遅れないようにして下さい。	注意・警告	指示・命令	1	1
この水は飲まないで下さい。	注意・警告	指示・命令	8	13
鉛筆で書いてもいいですか。	許容	指示・命令	8	12
もう帰ってもいいです。	許容	指示・命令	4	5
人に迷惑をかけてはいけませんよ。	忠告	指示・命令	7	13
薬を飲んだほうがいいですよ。	忠告	指示・命令	4	8
先生に相談してみたらどうですか。	提案・説得	指示・命令	1	1
もう遅いから帰ったほうがいいんじゃないいませんか。	提案・説得	指示・命令	2	2
約束は守らなければなりません。	義務	指示・命令	8	15
もう一度行かなければいけません。	義務	指示・命令	3	3
きょうは水曜日ですね。	事実確認	情報交換	2	7
朴さんが先生にしかられたというのは本当ですか。	事実確認	情報交換	2	4
うちから学校まで歩いて30分です。	説明	情報交換	1	1
今度の旅行には山本さんも行くらしいです。	説明	情報交換	2	2
あなたは日本に行ったことがありますか。	経験	情報交換	6	8
いいえ、私はまだ日本に行ったことがありません。	経験	情報交換	8	12



バスと地下鉄とどちらのほうが便利ですか。	比較	情報交換	4	5
地下鉄のほうが便利です。	比較	情報交換	6	11
その問題は難しすぎると思います。	意思表示	意見交換	6	16
お名前を教えてもらいたいんですが。	意思表示	意見交換	2	4
それでいいと思います。	同意・反対	意見交換	1	3
そうですね。	同意・反対	意見交換	6	23
これはいくらですか。	買物	問題解決	10	17
もう少し大きいのはありませんか。	買物	問題解決	8	11
駅へ行くにはどうしたらいいでしょうか。	案内	問題解決	2	3
3番バスに乗れば駅へ行けます。	案内	問題解決	1	2
とても静かでいい所でした。	報告	問題解決	11	61
先生はもうお帰りになったそうです。	報告	問題解決	9	19
もしだれもいなかったらどうしましょう。	仮説	創造的活動	5	7
安ければ、私も買います。	仮説	創造的活動	2	2
あの子はいくつぐらいでしょう。	想像	創造的活動	7	15
お元気でいらっしゃいますか。	手紙	創造的活動	7	9
では、お体に気をつけてください。	手紙	創造的活動	4	4

注) 用例頻度とは、12種の教科書に掲載された用例の頻度を示す。

### 3.4. 文字

12種の教科書の使用漢字項目数は計812字に達している。1冊平均では341字が使われ、これが基準となった。5種以上で用いられている漢字は345字、8種以上の高頻度漢字は217字であるため、これを基準として217字以内から出題し、基本語彙表にない漢字については読みがなと意味を提示することとした。

実際の試験では、以下の86の漢字が使用された（ふりがなをふったものを除く）。

一運映駅円園屋家下画外学月間気機帰銀九空建験見古語午後行公行校好国今左座山森思試

#### 4. 2001 年度修能試験日本語科目分析

##### 4.1. 発音・表記

次に 2001 年度の修能試験を内容領域別に分析してみたい。「発音・表記」に関する問題は 3 題（1～3）出題された。具体的には電話番号を聞いて（実際にはひらがなで発音表記されたものを見て）それを文字で正しく表記した答えを選ぶ問題（聞く）、「どうもありがとうございます」の正確な発音・表記を選ぶ問題（話す）、発音（ひらがな表記）にあった漢字を選ぶ問題（書く）が出題された。

##### 4.2. 語彙力

「語彙力」に関する問題は 3 題（4～6）出題された。意思疎通対話文に用いられる挨拶「おげんきですか」を問う問題（話す）、「箸」について説明された文を読んで、何の説明かを考える問題（読む）、漢字やカタカナで書かれた 6 つの「乗り物」の単語から、そのカテゴリーを考える問題（書く）が出題された。

##### 4.3. 文法

「文法」に関する問題は 3 題（7～9）出題された。格助詞として「に」を選ぶ問題（読む）、会話の際に重要となる終助詞として「ね」を選ぶ問題（話す）、「（動詞）てから」が用いられた重文を読み、2 つの文の関係を考える問題（読む）が出題されている。

##### 4.4. 意思疎通能力

「意思疎通能力」に関する問題は表 6 に示された 18 題（10～27）が出題された。特徴としては、出題された問題文のほとんどが（口語の）対話形式となっていたり、「招待」で招待状が掲載されているなど、実際の意思疎通の場面を反映した出題となっている。ただし「感謝」の「お世話になりました」、「義務」の「約束はまもらなければなりません」などはやや難解ということで、対話形式になっていなかったり、場面設定が設問文の中で韓国語で説明されていたりしている。

#### 4.5. 文化理解能力

「文化理解能力」に関する問題は3題（28～30）出題された。説明文を読んで、日本式の「正座」の座り方を選ぶ問題（読む）、日常的に目にする広告（コピー店の広告）を読んでその内容を理解する問題（読む）、日常的に取り交わされる挨拶として「いただきます」が用いられる場面（食事場面）を問う問題（書く）が出題された。

#### 5. まとめ

最後に今回の事態が韓国の日本語教育に及ぼす影響について考えてみたい。

表6 2001年度修能試験に使用された意思疎通機能別使用文

機能		問題	出題文
個人の 考え	願望・意思	10	私は日本語の先生になりたいです。
	確信	11	来年、あなたはきっと大学生になるでしょう。
個人の 知覚	感覚	13	このキムチ、おいしいですね。からくありませんか。いいえ、とてもおいしいです。
	好き・嫌い	12	わたしは山が好きです。運動が好きです。歩くのが好きです。
親交活 動	挨拶	15	あしたね。うん。またあした。
	招待	14	時間があったら、ぜひ来てくださいね。
日常的 な対人 関係	紹介	16	はじめまして、山下です。どうぞよろしく。イーです。どうぞよろしくおねがいします。
	感謝	17	たいへんお世話になりました。
	謝罪・弁明	18	あの、スーパーはどこですか。すみませんが、よくわかりません。
誘い・ 依頼	承諾・拒絶	20	あした、いっしょに映画を見に行きませんか。すみません。あしたはちょっと....。
指示・ 命令	許容	21	入ってもいいですか。どうぞ。失礼します。
	義務	22	約束は守らなければなりません。
情報交 換	説明	24	本を読んでいる。ネクタイをしている。かばんを持っている。
	経験	23	東京に行ったことがありますか。大阪には行きましたが、東京にはまだ....。私も大阪には行ったことがあります。
意見交 換	意思表示	25	日本語の試験はむずかしいと思いますか。いいえ、やさしいと思います。
	同意・反対	26	もう1時ですね。なにか食べましょうか。それはいいですね。
問題解 決	買い物	27	いらっしゃいませ。えんぴつは1本いくらですか。20円です。
	案内	19	駅を出て、食堂のある道を少し行くと、左に銀行があります。わたしの家はその銀行のとなりです。

何よりもまず、7年ぶりに大学入試科目となったこと自体の影響を無視するわけにはいかないであろう。日本以上に受験競争が熾烈な韓国において、その科目が受験科目に含まれるか否かということほど教育現場に大きく影響を及ぼすものはない。これまで第2外国語は修能試験から除外されることを通じて、非重要科目として取り扱われてきた。しかし今回、第2外国語が大学入試科目に含まれたことにより、日本語を含む第2外国語に割り当てられる授業時間は増加し、正規の教科目以外にも放課後の特技・適性時間に日本語が教えられるようになった。しかも第7次教育課程からは、教科目選択の主導権が学校側から学生側へと移ることで、こうした傾向はさらに加速化していくものと思われる。

第二に評価内容が及ぼす変化を挙げる必要がある。今回の試験では、言語知識よりは、意思伝達能力などの言語使用能力を問うことに重点が置かれたことが大きな特徴となっていたが、こうしたことは第6次教育課程以降進められてきた、構造シラバスから機能シラバスへ、また言語用法中心の教育から言語使用中心の教育へとといった方向転換をさらに加速化させることになると思われる。

第三に文化理解能力が評価されたことである。これにより意思疎通能力に言語能力のみならず文化理解能力が不可欠であるといった認識はさらに深められていくであろう。またこうした認識の変化は授業形態にも影響を及ぼし、日本の文化などをリアルタイムで伝えるインターネットやマルチメディアなどの重要性がさらに高まっていくと思われる。

---

## 注

(1) 1994年からの修能試験の導入以降、第2外国語科目は大学入試科目から除外された。さらに1996年から導入された第6次教育課程では英語中心の言語政策が行われ、学校によっては第5次教育課程で12単位あった第2外国語必修科目（各第2外国語Ⅰ・Ⅱ）が英語の課程必修科目（共通必修の共通英語科目以外の、英語Ⅰ・Ⅱ、英語読解、英語会話、実務英語などの科目）にとって代われ、最大6単位にまで減少を余儀なくされた。中でも日本語は1994年にソウル大の本考査第2外国語選択から除外されることにより、高校での位相はさらに低下していた。こうしたことから今回、第2外国語が大学入試科目に含まれたことにより、中等教育での日本語を含む第2外国語教育は活性化の契機となっている（詳しくは森山(2001)を参照）。

(2) 第2外国語領域は今回新たに加わった科目であり、選択科目であるというものの、

---

受験生の負担を増やすことになる。そのため教育評価院は全ての第2外国語科目の出題委員に対し、平均点 65-70 点、成績上位 50%の平均点が 80-83 点と、試験問題を難しくしないよう求めている。

(3) 第2外国語領域の出題にあたっては第2外国語の領域的な特徴を生かしつつも原則的には Bloom の内容・行動の二元目標分類原則に基づいて問題が作成された。その結果、行動領域は言語理解（聞く、読む）と言語表現（話す、書く）とに分け、内容領域は発音・表記、語彙、文法、意思疎通機能、文化に区分された。また難易度は基礎的な意思疎通能力を測定できるものとされた。

(4) 基本語彙表は教育部(1997 : 268-278)の別表Ⅱを参照。

(5) 日本と韓国では「正座」の座り方が食い違っている。

#### <参考文献>

(1) 李徳奉(2001)「修能評価問項の出題基準及び分析」『日本学報』46、韓国日本学会。

(2) 韓国教育課程評価院(1999)『大学修学能力試験第2外国語領域出題指針開発研究』、韓国教育課程評価院。

(3) 韓国教育課程評価院(2000)「2001 学年度大学修学能力試験採点結果報道資料」、<http://www3.kice.re.kr/>、韓国教育課程評価院。

(4) 教育部(1997)『外国語と教育課程(Ⅱ)[別冊14]』、教育部。

(5) 森山新(2001)「韓国における日本語教育と教員養成」『言語文化と日本語教育』21、日本言語文化学会。

(お茶の水女子大学)

---

Influences of the inclusion of the Japanese language as a college entrance examination subject in Korea

MORIYAMA Shin

In 2001, the Korean government introduced "second foreign languages" as new subjects in their national college entrance examination. Their primary focus is on communication rather than linguistic knowledge, to the extent that questions addressing communicative skills accounted for as much as 60% of the entire questions. Moreover, three questions addressed cultural knowledge, which accounted for 10%.

Apparently, this inclusion of "second foreign languages" in college entrance examination will make these subjects more important at Korean high schools. Also, communicative skills and cultural understanding will be given higher priority in high school classrooms.